

施設整備のコンセプト

事務局（行政）の各種提供資料で十分なコンセプトになっていると自分なりに高く評価しています。また昔から適正な立地、焼却場面積と関連事業（サーマルリサイクル&マテリアルリサイクルなど）焼却炉選定は学識専門委員で想定通りの検討を期待、日本で最古の焼却炉運転実績を新炉で現在の技術者のキャリアを新炉技術と併せて大いに生かされることを期待しています。

少々古いですが、別に委員として平素から考えている焼却炉のソフトランディングとしてローカルリスクとグローバルリスクの関係、周辺事業への民間活力の利用、自然の学習センター、近隣地域の文化歴史、近隣事業などを含む環境アセスメントへの私見概要など委員会での自分なりの発言、質疑内容に供する準備資料ですが参考に別送しておきますので参考にできれば幸いです。

- 1) イニシャルコスト（初期投資）とランニングコストの基本的概念
- 2) ゴミ処理方式の決定判断となる具体的な比較（対比）資料の提出
- 3) 最終選択は2方式に集約し徹底議論（処理委員会参加）・・・決定する
- 4) 熱回収システムの効率化と具体的な利用メニューを検討（発電or温水）
- 5) 修繕積立金が必要になるが、その金額の積算根拠
- 6) 測定値がオンラインで確認できる掲示板の設置予定は？
- 7) 異常値発生時の市民告知と対応
- 8) ダイオキシン等の定点観測（モニタリング）の必要性？
- 9) ホームページの開設、データの掲載されるのか？
- 10) 一時的な操業停止の判断基準は？
- 11) リサイクル施設の運営方針の方向性と環境啓発と体験学習機能の充実
- 12) 住民参加の可能な施設整備・・・定期的な交流イベント実施

可燃ゴミの焼却・熱回収施設のあり方について

現状の『可燃ゴミの回収及びその焼却サイクル』を基本とした施設を建設する事を前提にそのあり方を提言します。

1. 建設の計画、環境調査、施設稼働後の運営を、『行政と市民が共に、ゴミ処理のあり方を考え続けるカタチ（組織）』を作る。それは、ゴミ処理は市民と行政の両者の協力がなければ成り立たない問題だからです。
2. ゴミ焼却施設は、その性質から運転トラブルによる『有害物質の流出』が避けられない為、そのモニタリング組織（行政と市民による）を作る事による信頼関係をつくる必要があります。
3. 将来の科学技術の発展により、ゴミが資源に変わる時代に『ゴミ回収の善循環サイクル』の夢を、行政と市民が共に見る事のできる信頼関係を作る事こそが、ゴミ行政の基本スタンスになると考えます。

リサイクルできるゴミは徹底的に資源化して焼やすゴミを少なく！！それが安心・安全・安定につながります。

第3回検討委員会資料にあります、【組合が考える施設整備のコンセプト】を次のとおり修正することが好ましいと思います。

「周辺環境の保全」を「周辺環境の保全と調和」

修正の理由 周辺環境を可能な限り保護する「保全」の観点と併せて、「調和」する観点も必要と考える。

調和の説明 施設の外観が周辺環境や景観と溶け込み、調和がとれていること。
白煙防止設備を設置することにより、視覚的な安心感を与え、市民感情との調和を図ること。

「安全な・安心できる・安定した施設」を「安全な・安心できる・安定した・経済性に優れた施設」

修正の理由 構成両市の現状を鑑み、必要な項目と考える。

経済性の説明 投入した費用と効果のバランスが優れていること。